



合同会社マツシン 代表
Pivot川西 オーナー
エンジニア

松田 晋一さん

つながりや成長 感じられる場所に

01 Interview

日常を豊かにする空間
利用者や地域の人みんなで育てていきたい

**地元川西で
コワーキングスペースを開設**

大学進学で川西を出て、そのまま就職。10年ほど前、川西に戻ってきました。転職を機に在宅勤務になったのですが、家族以外の人と接する機会が必要だと思い、週に1回、大阪のコワーキングスペースを利用するようになりました。落ち着いた空間で自分のペースで仕事ができ、色々な職種の人と知り合える。そういう場所が川西にもつくれたらと思ったんです。

その後フリーランスになり、軌道に乗ってきたので、開設に向けて3年4月から本格的に動き始めました。ちょ

うどその時、川西市でコワーキングスペース開設の補助制度があったので応募して、9月に承認されたんです。

開業資金を募ろうと、4年1〜2月にはクラウドファンディングを行いました。準備過程を見てもうことで、私の挑戦を応援してくれる仲間ができればと思ったんです。予想以上に反響がありましたね。月契約の固定席は、オープン前には全て埋まりました。心待ちにしてくれる人が多いのだと実感できました。

**利用者と一緒に
育てていきたい**

4月にオープンしてから現在まで、定期利用から一時利用まで、それぞれのニーズに合う形で使ってもらっています。将来的には、Pivotで誰かが面白いイベントを企画してくれたらうれしいです。

オープンから約半年。Pivotはまだまだ成長過程です。皆さんと一緒に育てていきたいと思っています。

ここに来ることで縁が生まれ、日常が豊かになったり、ビジネスのヒントに結びついたりしたら良いですね。

02 Interview

念願だったコワーキングスペース 理想の環境で仕事ができる

Pivot川西で固定席を利用
オフィスタニハタ 代表 / 設計士 谷畑 裕之さん



できると知ってすぐに申し込んだ

30年前に設計事務所から独立。現在はフリーランスとして働いています。

長い間、自宅兼事務所というスタイルで働いていました。プラント(工場設備一式)設計の仕事は、一年の半分くらい出張先に滞ります。オフィスを借りると家賃がもったいないので、個別ブースを借りられるところがないか、ずっと探していたんです。1月ごろ、家の近所にPivotができることをSNSで知って、すぐに申し込みました。

固定席で契約すると、会社の住所として、Pivotの住所を利用できます。あと、自分に必要な物を持ってきて、落ち着く空間で仕事ができる。それが私にとって一番の魅力かもしれません。

集中力が落ちてきたら、場所を変えて、掘りごたつ席で仕事することもできます。合間に異業種の人と話すと、良い刺激をもらえますね。

イベントもよく開催されていて、たまに参加することもあります。地元で新しいつながりが増えたことがうれしいです。

Special feature

私らしく働く

従来の出勤から在宅勤務、コワーキングスペースの利用など、働き方はさまざま
今号では、自分のライフステージや経験に合う働き方をする人にフォーカス
自分らしく働くためのヒントを探ります

問い合わせ 産業振興課 ☎072(740)1162



コワーキング スペース Pivot川西

コワーキングスペースって?

他の利用者と事務所スペースや会議室を共有しながら仕事が行える場所

市の補助制度を活用して、4月に開設されたコワーキングスペース。

開放的な空間で、用途に応じた席を一時・定期利用できる。起業支援プランなども受けられる他、資格勉強会や利用者同士の交流会などさまざまなイベントが開催されている。

場所 中央町3-6太陽ビル2階
営業時間 月~金曜日は午前9時~午後9時、土・日曜日は午前10時~午後7時
電話 072(755)6173
ホームページ
<https://pivot-kawanishi.jp/>



さまざまな働き方を実現

新型コロナウイルス感染症は、人の暮らしに大きな影響を与えました。働き方の変化はその一つです。

「テレワーク」や「在宅勤務」が急速に拡大。会社での勤務にとらわれない働き方への理解や環境が広がりました。今後もさらに、社会の変化や、それぞれのライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が広がっていくでしょう。

同時に、働くことへ課題を感じている人が、意欲や能力を発揮できる環境を、さらに整えていく必要があります。多様な働き方を推進するため、市は、コワーキングスペースの開設を支援。また、子育て中の女性や通勤が困難な人の就労をサポートするため、在宅ワークなどに関するセミナーを開催します。

次のページからは、市内のコワーキングスペースのオーナーや利用者、会社員やフリーランス、多様な働き方のセミナー講師を紹介。さまざまな話を通じて、皆さんが自分らしい働き方を見つける機会につながっていきます。

用語の説明

テレワーク

時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態のこと。リモートワークとも言う

フリーランス

特定の会社や団体に所属せず、仕事に応じて自由契約をする個人事業主のこと



池田さんの仕事道具。ウェブサイトの編集や執筆に欠かせない

Must Item

04 Interview



フリーランス Freelance

自分のペースで仕事する

人とのつながりを活かに

池田 佳世子さん

市在住。フリーランスで執筆や編集、各種プロジェクトマネジメントなどを行う

ある1週間の主なスケジュール

- 月** 事務作業
クライアント(顧客)と会食
- 火** コワーキングスペースで仕事
- 水** クライアントを訪問
コワーキングスペースで仕事
- 木** オンラインでギターレッスンを受講
オンライン研修の講師を担当
- 金** 読書や勉強
夕方から飲みに行く
- 土** オンライン会議
カフェで執筆
- 日** オンラインでパーソナルトレーニングを受講
夕食作り

大学を卒業してから、デザイン制作会社へ就職しました。その後、多くの仕事を経験し、4年前からフリーランスとして働いています。クライアントを訪問するとき以外、仕事する場所は、自宅と大阪のコワーキングスペース、カフェの3カ所。その日の気分や体調、仕事の内容によって変えています。執筆する時は家や近所のカフェ、誰かと話したい時はコワーキングスペースなどです。体調が優れないときは、家で仕事することが多いです。自分で調整しながら進められるので、安心できます。コワーキングスペースへは、週に2・3回通っています。さまざまな年代や職業の人と知り合えて、面白いんで

す。そこでの出会いから、仕事に結び付いたり、飲み友達ができたりもしました。楽しそうなイベントがあれば参加しますし、SNS上のコミュニティも活用しています。そういうつながりからもらう刺激が、私の活力になっています。あと、業界の新しい情報を得る機会でもあるんです。組織に属していない分、アンテナを高く張っておかないと、情報を逃してしまうこともあります。働き方は、人それぞれ違って当然だと思うんです。私は多くの人との出会いから、自分に合う働き方を見つけられました。今後も自分のペースで、ステップアップしていきたいですね。

広がる多様な働き方

社会や環境がめまぐるしく変わるこの頃
会社員やフリーランス、オフィスや自宅。働く形態や場所は、人それぞれです
ここでは、ライフスタイルが異なる2人に話を聞いてみました

03 Interview



Office Worker 会社員

通勤時間を家族との時間に

コロナ禍で働き方が大きく変わった

名畑 龍史さん

市在住。(株)オプテージに勤務。法人向けにICTを活用した業務システムのコンサルや営業などを行う

ある1週間の主なスケジュール

- 月** 在宅勤務
オンラインコミュニティの活動に参加
- 火** 在宅勤務
自治会の活動に参加
- 水** 在宅勤務
午後から出張
- 木** 出社
顧客を訪問
- 金** 出社
午後から出張
- 土** 掃除など家事を担当
子どもと公園で遊ぶ
- 日** 家族で美術館へ
夕食作りを担当

「テレワーク」や「在宅勤務」。言葉自体は十数年前からありました。社内でも進めようと、以前から動きがあったものの、予算化が難しく、実現できていませんでした。コロナ禍がきっかけで、社会全体で一気に普及したように思います。私は営業職で、以前は基本的に本社に出社し、出張も多かったです。コロナ禍で、取引先の担当がほとんど在宅勤務になり、オンラインの会議が増え、私も働き方が変わりました。今は本社・在宅・出張が、同じ割合くらいですね。在宅の日は、通勤時間を有意義に使えるようになりまし。子どもと一緒に朝ごはんを食べ、学校へ行く際にいっ

てらっしゃい、と見送れる。家族との時間を持って、気持ちにゆとりもできました。一人で言う事務作業は、家の方がはかどります。会議もオンラインの場合、移動時間がなく、予定時刻に終了するため、効率化が図れると思います。家でできることが増えた一方、対面の方が上手くいく仕事もあると感じました。商談のときなどは、オンライン上でするよりも、対面の方が適しているのではないのでしょうか。表情やしぐさで人となりや信頼関係が構築しやすいと思います。それぞれのメリットを生かしつつ、仕事の性質によって、働き方を柔軟に使い分けていきたいです。

自分らしい働き方を見つける

子育て中の人や、通勤を前提にした働き方が難しい人など
それぞれの生活状況やスキルに沿った多様な働き方を市は応援します

問い合わせ 産業振興課 ☎072(740)1162

全2回連続セミナー

vol.01 **多様な働き方を知る**
いろんな働き方を知り、自分に合う働き方を見つけよう
11月9日(水)午前10時～正午
講師 (株)ママントレ代表 須澤美佳さん

vol.02 **キャリアプランニング**
今、私にできることは？キャリアプランを考える
11月30日(水)午前10時～正午
講師 (株)mapB 取締役 幟建由佳さん

会場 いずれも **アステ市民プラザ**

申し込みなど詳しくは10月号に掲載。セミナー後の5年1・2月には、相談会も実施する予定です。
対象＝育児など、家庭生活と両立させながら働きたい人、会社勤め以外の方法（在宅勤務など）で働きたい人▶定員＝セミナー20人、相談会各10人（いずれも先着順）



(株)ママントレってどんな会社

社名はママと、英語で起業家の意味である「アントレプレナー」を組み合わせたもの。「ママの働き方はもっとあっていい」をモットーに、ライフスタイルに合わせた働き方を提案している。

同社に登録する就業意欲の高い人材と企業をマッチングする「エリアマイスター」の活動の推進や、在宅ワークのできる仕事の創出、ママ向けの相談・交流会の開催なども行う。



Check! セミナーに合わせて **動画を公開予定**

市で実際にフリーランスなど多様な働き方をしている人の紹介動画を作成。今後、公式YouTubeチャンネルで公開予定です。

市長メッセージ



ベッドタウンから 職住近接のまちへ

市長 越田 謙治郎

コロナ禍で新たな生活様式が普及し、働き方が大きく変わってきています。今まで市外で活躍していた方々の市内で過ごす時間が増えると、市内の人同士の交流が盛んになり、まちに活気やにぎわいが生まれます。身近な人との関わりは、日々の充実感につながっていくはずですよ。

また、今までの「出社前提の勤務スタイル」では、仕事を継続することが難しかった方たちの、働くことへの可能性も広がっています。市としても、皆さんの強みや能力を発揮できる環境をつくっていくために支援していきます。

高度経済成長期以降、市は豊かな自然と大阪への利便性

を兼ね備えたベッドタウンとして成長してきました。

しかし、これは人口が増加した右肩上がりの時期の、過去のまちづくりモデルです。少子高齢化が進み、生産人口の減少が避けられない中で、今後は職住が調和するまちへと転換していかなければいけません。

多様な働き方が定着することで、住宅都市として発展してきた川西に、働く場所や魅力あふれる人材が交流する場所という「新たな価値」が生まれることを期待しています。皆さんが、自分らしい暮らしを実現できるまちになるよう、引き続き取り組んでまいります。

05 Interview

あなたのスキル 生かしませんか

働ける時間が限られたり出勤が難しかったりする人にも

時間や場所にとらわれないで

あなたの強みを生かす働き方があります

女性の多様な働き方をサポート

(株)ママントレ 代表 須澤 美佳さん



スキルが 埋もれている現実

「スキルや経験があっても、発揮できていない女性がたくさんいる。もったいないと思っただけです」

そう話すのは、(株)ママントレ代表の須澤美佳さん。大学卒業後、システムエンジニアとして働いていましたが、結婚・妊娠を機に退職したそうです。

「出産後、もう一度働きたいと思っただけで、子育てとの両立もあり、思うような仕事を選べませんでした。周りにも、元々は色んなところで能力を発揮していたのに、今はその力を生かしていない人が多く、私と同じだと気がきました」

自分の力を 知ることから始まる

須澤さんは、強みを持つ女性と、企業をつなぐ活動「エリアマイスター」を始めました。地道に続ける中で年々依頼は増え、平成28年にママントレを法人化。現在、約600人がエリアマイスターに登録し、さまざまな分野で

活躍しています。

「私でもできるの？とよく聞かれます。気付いていないだけで、みんな隠れたスキルを持っているんですよ。まずは、自分の力を知ることから始まります」

場所を問わない 新しい働き方

同社は、人材と企業をマッチングするサービスを提供。登録者と仕事を引き合わせる際に、大切にしていることがあります。

「一人一人のスキルや適性を見て、仕事内容と合う人へ依頼しています。大きな仕事は、チームを組んでやってもいいこともあります。教え合ったり、フォローし合ったりすることで、スキルアップにつながるんです」

以前から、インターネット上で個人のスキルと仕事をマッチングするサービスはありましたが、コロナ禍でその流れに拍車がかかったと言います。

「コロナで、『テレワーク』が一気に浸透。場所中心の働き方から人中心の働き方へ、考えが変わってきました」

た。スキルがあれば、場所を問わず仕事ができるという認識が進んだことで、エリアマイスターへの依頼が増えているんです」

また、コロナ禍で、幼稚園や保育所、小学校の学級閉鎖が頻繁に起きています。

「仕事を休まざるを得ない場合もありますし、会社勤めで出社前提の人は、特に困っていると思うんです。これを機に、働き方を見直してみるのもいいかもしれません」

輝ける場所が きっとある

働くことから長い間離れ、自信が持てない人も多いのでは、と須澤さん。

「今じゃなく、今後働きたいと思うタイミングがあるかもしれない。その時に、いくつか働き方の選択肢を持っていけば、役に立つと思います。家庭の中で、パートナーや子どもがあなたを必要とするように、社会もあなたの力を必要としています。誰でも強みを発揮できる場が、きっとあります。一歩踏み出して、できることから始めてみませんか」